



# ボリビアでの活動記録

山下 万弥

## <はじめに>

「JICA 海外協力隊を応募したい。」そう思ったのは、大学生の時に授業の一環でタイの授業視察に行ったときのことである。「外国で教員として働いてみたい。」とその時思った。理由は2つある。

1つ目は「外国の教育について知りたい」と思ったことである。タイでは、日本では行われていない教育活動があった。教師をするにあたって、一つの考えだけではなく、もっと広い視野を持って子どもたちと関わりたいと感じ、「ぜひ外国へ行って、もっといろいろな教育方法を学びたい」と思った。

2つ目はナイトマーケットに行ったときのことである。道を歩いていたとき、ある少女と、両足のない少女のお母さんに会った。少女はお母さんのためにお金を得ようとしているようだった。一緒にいたタイの学生が私に「この子は学校へは行っていない」と言った。その時私は、「このままこの少女は、路上でお金を稼いでいくのだろうか。」と思った。

タイの学生の言葉を聞いた後、私は、「子どもたちに自分の将来の夢をもってほしい。でも、夢をもつためにはまずいろいろなことを知ることが必要で、いろいろなことを知するためには学力が必要だ。」と考えるようになった。そこで、教育学部に所属していた当時の私は、「教育で何かしら力になれないか」と考えるようになった。その後、まずは日本で5年間教員として、ある程度の教育技術を磨いた。そして2017年、「すべての子どもに学力を」という思いで、JICA 海外協力隊への応募を決意した。

そんな思いで応募をしてから、ボリビアへ派遣され、活動をして1年9か月が経った。実際のところ、ボリビアでの私経験は、すべてが楽しいと言えるものではなかった。異文化理解、言語の壁、経験の少なさなどの悩みは最後まで決してなくなることはなかった。ただ現在、「ボリビアに来てよかった。」と心から思っている自分がいる。

私にとってこの1年9か月は、「自分の教職経験を見つめなおし、新たな目標を見つげられた時間」であった。5年間日本で教壇に立ち、その後ボリビアへ来たことにより、「自分が教師として、そして子どもたちと関わるにあたって大切にしたいこと」、そして「これからの自身の夢」が明確になった。これから自分の経験を子どもたちに、勤務校にそして三重県に還元していけることを楽しみにしている。

この記録は、協力隊活動をいろいろな人に知ってもらうために作成した。ここには私の1年9か月の全活動が詰まっている。成功したことも失敗したことも、すべて私の活動。いろんな人に読んでもらえればと思う。

## ＜活動計画＞

ボランティアは、派遣して半年経った後に、配属先の方々とともに「活動計画表」を作成する。この活動計画表をもとにしながら、配属先の方々と活動を進めていく。

初めころは、各クラスの授業観察をして、自身で学校の現状と課題を考えた。その後、2018年の12月に先生たちと一緒に活動計画表を作成した。活動計画を考えるワークショップでは、先生方に学校の現状を話し合ってもらい、それに基づいて目標を立てた。

## 活動目標

- 先生方が客観的に自分の授業を振り返られる方法を用いた技術の移転
- 先生方が一定のレベルで、  
どの授業であっても同じような流れで授業を展開することができるような技術の移転

### 1.学校・学級の目標が明確化される

ワークショップを開催し、現状把握を全教員で行う  
現状の課題をもとにして、全教員で話し合いを行い、学校目標をつくる  
各学級それぞれが学校目標をもとにしながら、学級計画シートをつくる  
教員同士、学級経営に関する情報交換や、  
目標に沿った指導ができていないか意見交換を行う

### 2.教員の技術のさらなる向上が見られる

算数、国語の授業を私と共同で作る  
定期的に研修を開催する  
研究授業を行う

### 3.教員が継続して技術力向上に努められるような環境が整う

研修ができる体制をつくる

この活動計画に基づいて、先生方といくつかの活動を行ってきた。まずはその活動内容について詳しく書いていく。



## &lt;活動詳細&gt;

## 1. 学校・学級の目標が明確化される

## ①学級指導計画の作成

Planificación Curso (            )

**Objetivo del colegio**  
 Todos los estudiantes tienen la motivación y ánimo de aprender.  
 Todos los estudiantes pueden expresar en su expresión oral y escrita.  
 Todos los estudiantes pueden practicar los valores que aprenden.

★Escriba su idea concretamente★

Objetivo de la clase		
Quiero que los estudiantes puedan aprender en este año	•	
El estado en la clase ★Escriba sobre un estudiante que necesita más ayuda que otros estudiantes.	Sobre estudiar	
Las partes esenciales de enseñar en la clase ★Escriba sobre la enseñanza para que un estudiante que necesita más ayuda pueda aprender más.	Sobre estudiar	
	otro	

先生方と学校の現状と課題に関する分析を行った結果、3つの課題が出てきた。その1つが「目標の設定」であった。指導計画を立て、さらに継続的な指導ができるよう、学期はじめの2月に「学級指導計画」を作成してもらった。

計画表には、それぞれ「学級目標」「今年特に子どもたちにできるようになって欲しいこと」「学級の状態」「学級の状態からさらに良くするために必要な指導」を書いてもらった。「学級の状態」と「必要な指導」としては、学習面だけではなく、子どもたちの生活面についても書いてもらった。というのも、先生との課題分析の際に、「子どもたちの生活面

の態度が気になる」という言葉がたくさんでてきた。私にとって、授業力もちろんであるが、学級経営力も教員にとって必要なことだと思っている。授業力と学級経営力は常に自転車の車輪のように、両方ないと成立しない。そこで、どのようなことが現在課題であるのか書いてもらった。

## ②学校・各クラスの現状把握、意見交換、ルール作成

各先生がいい実践をしていたり、教え方に困っていたりしても、あまり意見交換をすることがないのが気になった。そこで、職員会議や私が主催する研修会の際に、クラスの現状を話し合ったり、どんな教え方をしているのかを共有したりする時間を設けた。

また、2020年2月には、先生方と一緒に学校のルール作成を

**NORMAS de U.E. 6 de Junio**

1. Escuchan con atención.
2. Colocan la basura en su lugar.
3. Trabajan con responsabilidad.
4. Conviven con respeto.
5. Consumen alimentos saludables.

行った。ルール作成の際には、まず、子どもたちの課題を全員で意見交換・共有をした後、5つのルールを決めた。また、そのルールは各クラスに掲示をしたり、生徒指導部の先生に子どもたちへの周知をお願いしたりした。

## 2. 教員の技術のさらなる向上が見られる

この活動が、1年9か月で一番重点的に行った活動である。主な活動は以下の3つである。

- ①校内研修の実施
- ②授業改善
- ③研究授業

それぞれの活動を詳しく説明していく。

### ①校内研修の実施

2018年9月から月に1回程度、校内研修を行った。研修では、教科に関係なく使えるような技術の紹介をした。教科ごとの技術移転となると、各学級の状況によって、必要なことが違ってくるためである。研修によっては、学年ごとに開催することもあった。

研修では、先生方に「これならできそう」と思ってもらうこと、そして「自分ならどうするか」ということを考えてもらうことを目標として行ってきた。行った研修は以下の研修である。

	日付	内容
①	2018年9月27日	聴く指導について
②	2018年10月31日	研究授業について
③	2018年11月22日	黒板の使い方について
④	2018年12月7日	課題分析ワークショップ
⑤	2018年12月12日	活動計画についての説明
⑥	2019年2月4日	「黄金の3日間」について
⑦⑧⑨	2019年3月14日15日21日	算数の授業の組み立てについて
⑩	2019年4月30日	学級経営力、授業力チェック
⑪	2019年6月12日	効果的な授業とは？
⑫	2019年8月14日	聞く、話す指導について
⑬	2019年9月4日	読む指導について（低学年向け）
⑭	2019年9月25日	授業の組み立て方について
⑮	2019年10月16日	文章題の指導について
⑯	2020年2月7日	ルール作りのワークショップ
⑰	2020年2月12日	ゴミを拾う指導について

⑮	2020年2月19日	座席配置について
⑯	2020年2月26日	机間指導、褒め方について

また、2019年4月以降の研修の際には、「授業力チェックシート」と「学級経営力チェックシート」の結果を見て、カウンターパートや校長先生と相談しながら来月のテーマを決めた。さらに研修では、先月のアンケートの結果を提示して、「なぜこのテーマで研修を行うのか」という趣意説明を必ず付け加えた。



## ② 授業改善

授業改善として行ったことは「授業の構成の改善」、「『ラーニングピラミッド』を用いた授業の展開」、「板書の改善」、「『授業力チェックシート』と『学級経営力チェックシート』を用いた自己評価の実施」、そして「『授業記録グラフ』を用いた授業の改善」である。活動計画を決める際に、子どもたちの学力を中心として活動を行うか、先生たちの授業力向上を中心とした活動を行うか悩んだ。ただ、前任のボランティアが子どもたちの学力（とくに計算力）を中心とした活動をしてきたため、ある程度先生方も計算力に関する指導はできていた。そこで私は、先生方の授業力向上を中心とした活動を行った。

まず、「授業の構成の改善」についてである。ボリビアの学校は1コマ80分間あり、どうしても子どもたちは集中が途切れてしまう。また、授業を観察している際に、「計算練習に使う時間の長さ」「子どもたちの考える時間の少なさ」を感じた。そこで授業を「導入・展開・まとめ・練習」という4つのパートに分けて授業を展開していく方法を伝えることにした。

はじめに、校内研修で授業の構成に関する研修を行った。その研修では、「指導案シート」を使って一緒に授業を考えた。授業を考える際には、「導入・展開・まとめ・練習」という4つのパートに分け

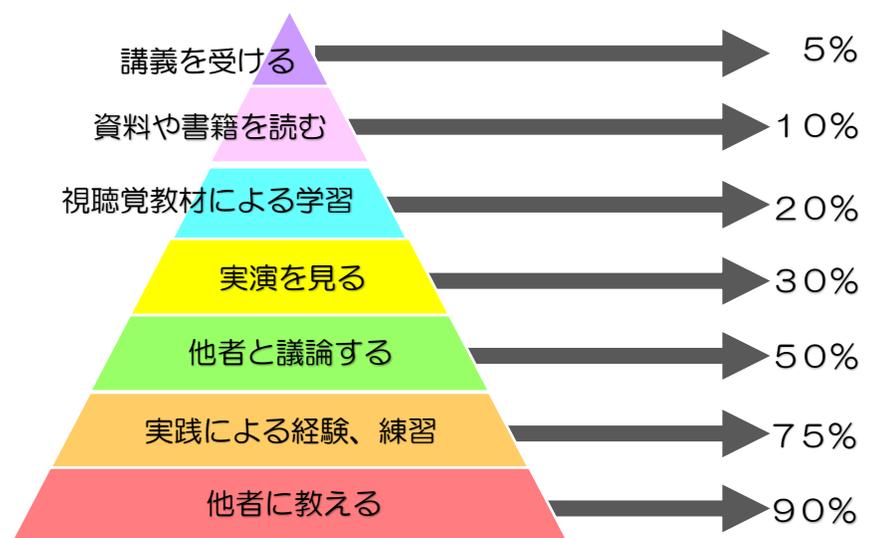


た表の中に、それぞれの時間にどのような活動を行うか、そして授業で困り感を持つ子どもたちにどのような手立てを行うかを書いてもらった。

しかし、先生たちにとって新しい方法であったため、なかなかどのように授業を展開していけばいいか難しかったようだった。そのため、どのような展開方法があるのかという例を見せるために、各クラスをまわり、算数の授業を実際に行い、その後、先生方と一緒に「指導案シート」を用いて授業を行った。

次は、『ラーニングピラミッド』を用いた授業の展開である。初めのころ、授業観察をしていると、「教え込み」のような授業ばかり行われていた。子どもたちは先生が黒板に書いたことを写し、その後計算練習をする……という感じであった。「子どもたちにとって、授業の中で答えを知ることよりも、ある問いに向かっていろいろなことを考え、意見交換をすることが大切なのではないか」とずっと考えていた。そんなある日、パラグアイの小学校教育隊員が研修内容をシェアしているのを見た。そこには、「ラーニングピラミッド」が紹介されていた。

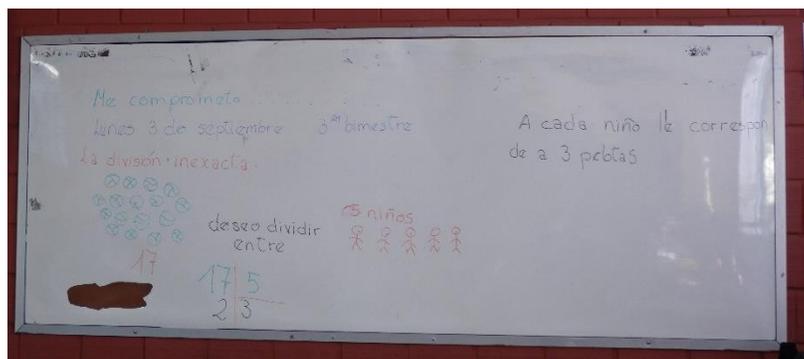
「ラーニングピラミッド」とは、学習方法と平均学習定着率の関係を表す図となっている。能動的になればなるほど学習の定着化を図れるとされている。定着率が高くなるほど、他者との関わりも必要となってくる。子どもたちの学習のために、先生方にぜひそのような学習方法を知ってほしいという思いで、研修を行った。また、研修を行うだけではなく、「指導案シート」にこの図を入れ、常に意識をしてもらったり、授業を観察する際に用いる「授業チェックシート」にもこの図を入れた。先生方の授業で使われている学習方法に印をつけ、先生方の授業はどのような方法を使っているのかを客観的に見てもらったりした。



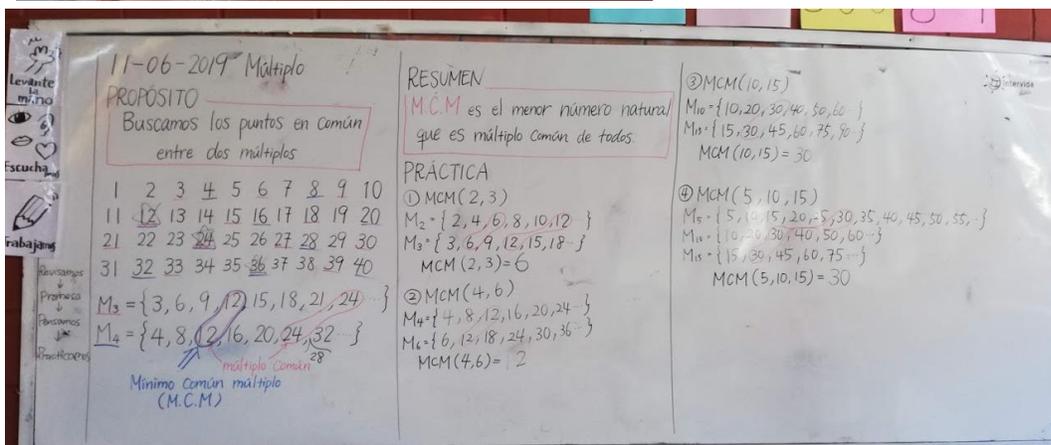
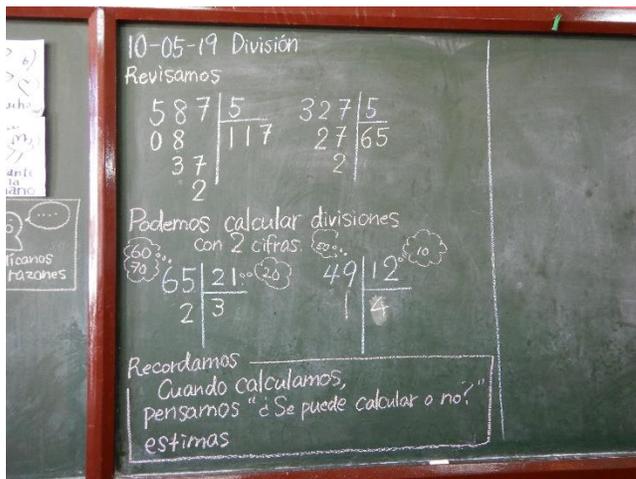
次に、「板書の改善」である。授業観察をしている際に、先生たちの板書が気になった。基本的に式と計算、答えを書いたりするだけで、板書を効果的に使っていないと感じた。また、2018年に行った研究授業の後に、「先生たちの板書の使い方が気になるので、板書の効果的な使い方について研修をしてほしい」と校長先生からの提案があったため、板書の改善を行うことにした。

## 2018年の板書例

板書の研修では、実際自分が行った授業の板書の写真を例に出し、「めあて・導入・展開・まとめ・練習」のそれぞれの時間の板書をどのように、どの場所に書くとよいかという説明を行った。ただ、ボリビアの黒板は日本の黒板より狭いこと、そして先生たちにとって新しい方法であったため、初めころはこの板書方法が受け入れにくかった。そのため、ボリビアの黒板でどのように行えばいいかの例を見せるために、各クラスで算数の授業を行った際に、板書計画も先生に渡し、見てもらった。



先生たちに板書の例を見せた



続いて、「『授業力チェックシート』と『学級経営力チェックシート』を用いた自己評価の実施」についてである。

学級指導計画を書いた後、先生方は毎月、その指導計画に関して自己評価している。その自己評価は記述式で、今月はどんなことができたか、そして来月は指導計画のどういうところを頑張りたいかを書いてもらっていた。ただ、授業を観察したり、自己評価を見たりしている中で、まだまだ先生方の自己評価の基準が曖昧であったり、また、先生方からどのように自己評価をすればいいのかわからないという声があったりした。そこで、学級指導計画表の自己評価とともに、私が作成した「授業力チェックシート」と「学級経営力チェックシート」も同じように毎月、自己評価をしてもらうことにした。先生方には「この自己評価は、現在の授業力や学級経営力を批判するものではなく、現在の状態を知ることですらに良くするために用いる」ということをあらかじめ伝えて行った。

#### AUTOEVALUACIÓN sobre la clase

Fecha \_\_\_\_\_ Curso \_\_\_\_\_

I Base de las clases	
① Pienso sobre las clases donde los chicos pongan mucha atención e interés.	A B C
② Pienso sobre el comienzo y el fin de las clases.	A B C
③ Enseño sobre las reglas de escuchar y expresarse a los chicos.	A B C
④ Puedo explicar y dar instrucciones a los chicos concretamente.	A B C
⑤ Llamo a los chicos para que ellos puedan concentrarse en estudio.	A B C
⑥ Mis estudiantes pueden escuchar bien.	A B C
⑦ Puedo dar la clase utilizando 4 partes. (Introducción, Pensamiento, Resumen y Práctica)	A B C
II Ambiente para estudiar bien	
① Los chicos pueden preparar unas cosas en sus mesas que son importantes en la clase.	A B C
② Pienso sobre los asientos de los chicos para que ellos puedan concentrarse bien.	A B C
③ Fijo unos carteles de los estudios en la pared del curso para que los chicos puedan aprender bien.	A B C
III Composición de la clase	
① Muestro el propósito (objetivo) de la clase en la pizarra.	A B C
② Pienso sobre la pizarra para que los chicos puedan entender bien.	A B C
③ Creo una situación que los chicos puedan expresar sus ideas en la clase.	A B C
IV Ayuda del estudio	
① Facilito a los chicos que trabajan bien en la clase.	A B C
② Cuando los chicos piensan solos, voy a sus mesas y les hablo y les aconsejo.	A B C
③ Cuando los chicos no entienden bien, ofrezco ayuda a ellos	A B C

### 授業力チェックシート

#### AUTOEVALUACIÓN sobre el manejo de la clase

Fecha \_\_\_\_\_

Curso \_\_\_\_\_

I Relación entre profé y los chicos	
① Trato por igual a los estudiantes.	A B C
② Descubro sobre los puntos fuertes de todos los chicos.	A B C
③ Trabajo con los chicos al limpiar u otras actividades.	A B C
II Relación entre los chicos	
① Enseño sobre el manejo de escuchar a otros y el manejo de expresar a otros.	A B C
② Hablo bien a los chicos cuando los chicos ayudan a otros estudiantes que están confundidos.	A B C
III establecimiento de las reglas	
① Hablo bien a los chicos que pueden observar la disciplina y les enseño las reglas concretamente.	A B C
② Fijo unos carteles de las reglas de la clase en la pared de la clase.	A B C
③ Explico porque observar la disciplina es importante a los chicos.	A B C
IV Horario y ambiente del curso	
① Informo a los chicos cuando las clases van a cambiar en la manera que ellos pueden entender.	A B C
② No hay basura en la clase.	A B C
Sobre su planificación	
Bien	Necesito mejorar

### 学級経営力チェックシート

ただ、授業力や学級経営力について、毎月1回の自己評価だけでは意識が薄れていくことも考えられた。そのため、私が授業を観察する際には、「授業チェックシート」を用いて観察を行った。

ABCのチェック項目のところは、「授業力チェックシート」と「学級経営力チェックシート」と同じものである。さらに「授業チェックシート」には、私の授業に関するコメントが書ける場所を作った。先生方は休み時間も忙しいので、話す時間があまりない。そこで、ここにコメントを書いて渡した。

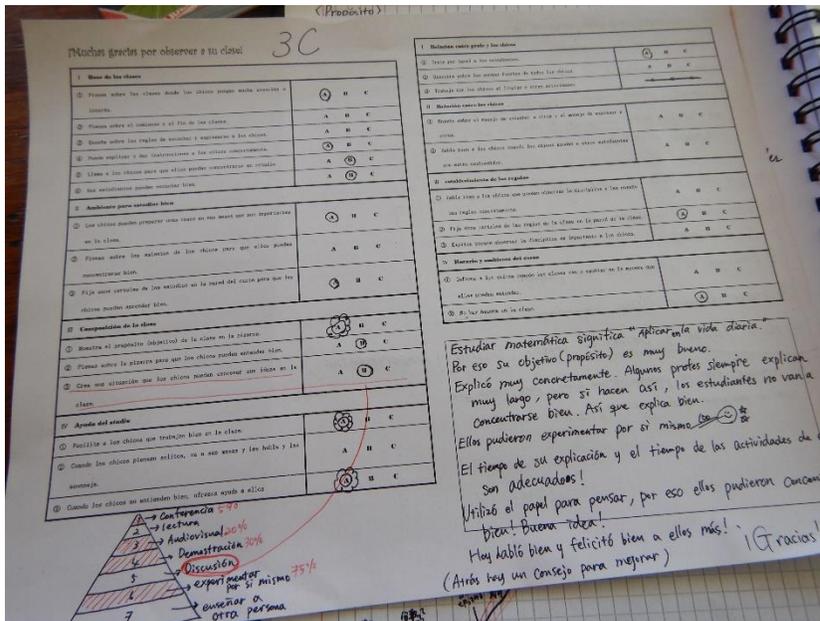
Muchas gracias por observar a tu clase!

I. Bien de las clases	
1. Pienso sobre las clases desde los chicos pegan mucha atención e interés.	A B C
2. Pienso sobre el comienzo y el fin de las clases.	A B C
3. Escucho sobre las reglas de escuchar y expresarse a los chicos.	A B C
4. Puedo explicar y dar instrucciones a los chicos concretamente.	A B C
5. Llamo a los chicos para que ellos puedan concentrarse en estudio.	A B C
6. Sus estudiantes pueden escuchar bien.	A B C
7. Puedo dar la clase utilizando 4 partes (Introducción, Pensamiento, Resumen y Práctica).	A B C
II. Ambiente para estudiar bien.	
1. Los chicos pueden preparar sus cosas en sus mesas que son importantes en la clase.	A B C
2. Pienso sobre los asientos de los chicos para que ellos puedan concentrarse bien.	A B C
3. Pijo unos carteles de los estudios en la pared del curso para que los chicos puedan aprender bien.	A B C
III. Composición de la clase	
1. Muestra el propósito (objetivo) de la clase en la pizarra.	A B C
2. Pienso sobre la pizarra para que los chicos puedan entender bien.	A B C
3. Creo una situación que los chicos puedan expresar sus ideas en la clase.	A B C
IV. Ayuda del estudio	
1. Felicito a los chicos que trabajan bien en la clase.	A B C
2. Cuando los chicos piensan solos, va a sus mesas y les habla y les aconseja.	A B C
3. Cuando los chicos no entienden bien, ofrezco ayuda a ellos.	A B C

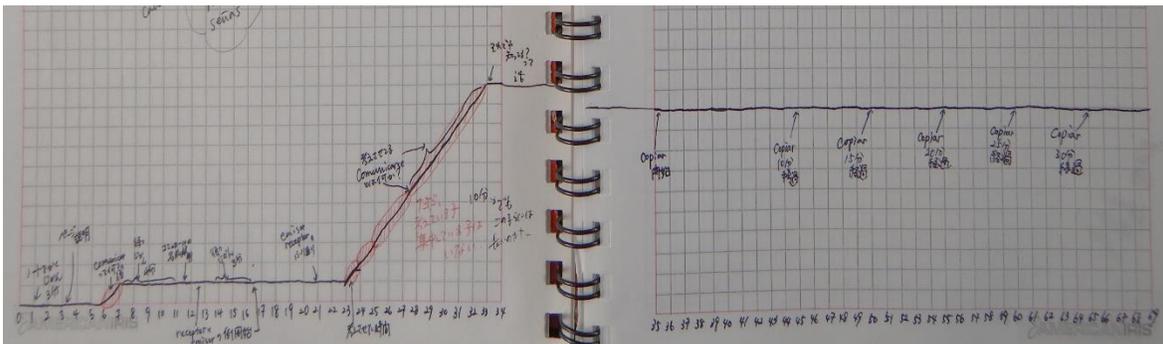
Pirámide del aprendizaje



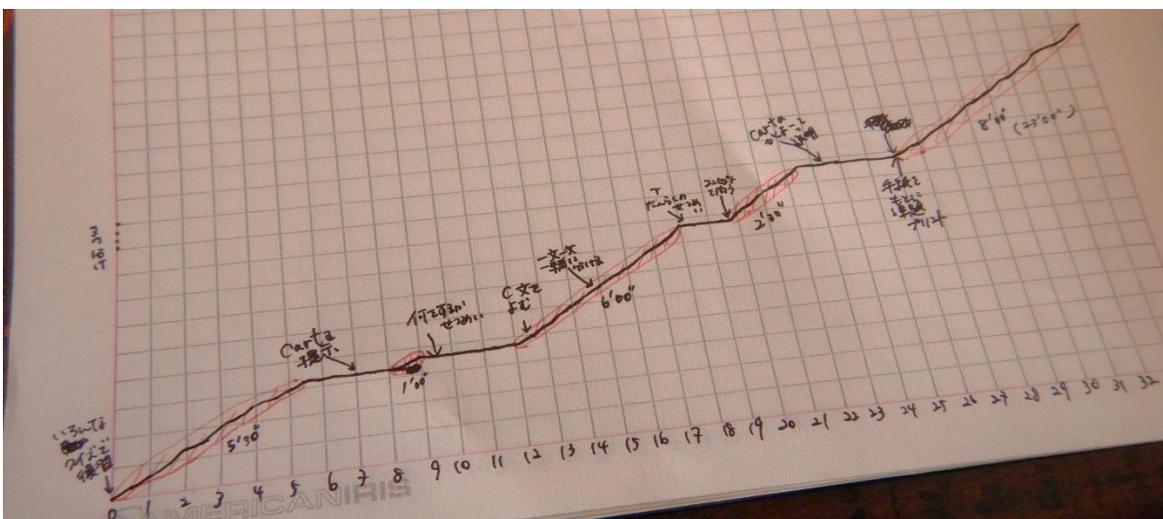
I. Relación entre profesor y los chicos	
1. Trata por igual a los estudiantes.	A B C
2. Descubre sobre los puntos fuertes de todos los chicos.	A B C
3. Trabaja con los chicos al limpiar u otras actividades.	A B C
II. Relación entre los chicos	
1. Escucho sobre el manejo de escuchar a otros y el manejo de expresarse a otros.	A B C
2. Habla bien a los chicos cuando los chicos ayudan a otros estudiantes que están confundidos.	A B C
III. establecimiento de las reglas	
1. Habla bien a los chicos que pueden observar la disciplina y les enseña las reglas concretamente.	A B C
2. Pijo unos carteles de las reglas de la clase en la pared de la clase.	A B C
3. Explica porque observar la disciplina es importante a los chicos.	A B C
IV. Manejo y ambiente del curso	
1. Informa a los chicos cuando las cosas van a cambiar en la manera que ellos pueden entender.	A B C
2. No hay basura en la clase.	A B C



最後に、『授業記録グラフ』を用いた授業の改善である。先ほども述べたように、「授業の中で、子どもが意見を発表する場が少ない」と感じていたので、2019年7月から「授業記録グラフ」を用いて、「授業時間の細部の見える化」を行った。グラフは1分ごと区切られた表となっている。



先生が主導の時間（教えていることが中心の時間）は、横向き矢印を引いていく。子どもたちが主導の時間（発表をしたり、意見交換をしたりすることが中心の時間）は、斜め向き矢印を引いていく。つまり、先生が話してばかりの授業だと、グラフは上の例のようにまっすぐで平らなグラフとなる。一方、子どもたちが活躍する授業だと、グラフは下の例のように右斜め上を向いたグラフとなる。



このように、授業の見える化を行うことによって、自分がどれくらい話してしまっているかを感じることができるのではないかと考えた。

### ③研究授業

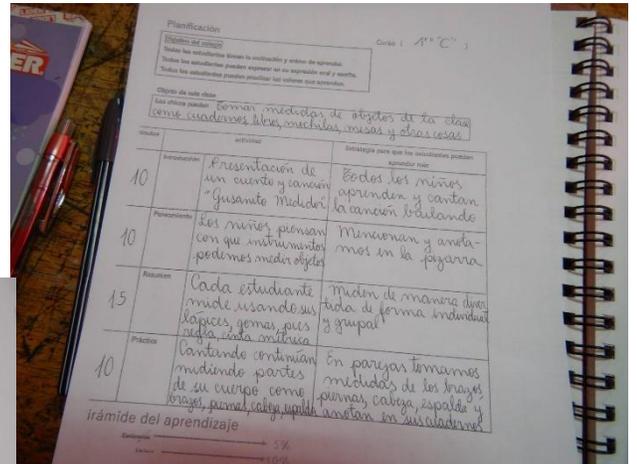
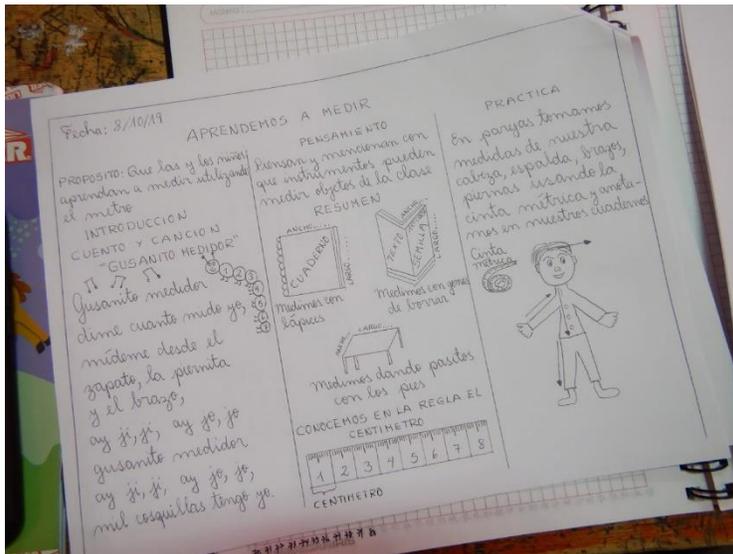
研究授業は、2018年11月と2019年10月の計2回行った。2019年の研究授業は、私といつも活動をしてくださっている先生方をお願いをして授業をしてもらった。私といつも活動している先生方は、1年半で改善された箇所が多く、それを他の先生方に見てほしかったからである。

2019年10月8日	1A「長さ」
2019年10月11日	4C「分数」
2019年10月17日	2A「割り算」
2019年10月18日	3C「角の大きさ」
2019年10月22日	6B「グラフ」

## 指導案

研究授業の2週間前には、1週間毎日そのクラスの授業観察を行い、「授業力チェックシート」や「授業記録グラフ」用いてさらに改善できることを伝えた。さらに、その1週間で、指導案と板書計画を一緒に考えた。

## 板書計画



また、授業を考える際には、「具体的な操作など、子どもたちが自ら考えられるような場面を入れること」を条件に、先生たちと一緒に授業を考えた。



さらに、2018年11月の研究授業と変えたところは、「授業を見ている人たちがその授業を評価すること」である。私が毎日使っている「授業チェックシート」を使って評価してもらった。毎回自己評価をしているが、他の人の評価をすることで、さらに各項目の理解にも繋がると考えたからである。また、項目があることによって、研究授業の検討会の際に、みんなが同じ基準で話を進めることができると考えたからである。

## 参観者のチェック



## 授業後の検討会



研究授業後には、その学年と校長先生が出席して事後検討会を行った。この際には、さきほどの「授業チェックシート」と、私が記録をした「授業記録グラフ」をもとに話を進めていった。

### 3. 教員が継続して技術力向上に努められるような環境が整う

1年9か月、研修部の先生方と関わりながら活動を行った。配属先には、学校の教育活動に関わるいくつかの委員会が存在する。その1つとして「研修部」という部会がある。研修部の先生方は、主に学校の授業や成績に関すること、そして学校行事に関することについて活動する先生方である。研修部の構成は、学校長先生、カウンターパート、そして各学年の先生が1人ずつ配属していた。研修部と関わることにより、①各学年の課題や悩みを収集しやすく、研修にいかせること、②他の先生方に情報が伝えやすいこと、そして、③私が帰国後もその先生たちをリーダーとして研修が行えると考え、一緒に活動をしてもらった。主な活動としては、研究授業についての計画、来年度の研修計画を立てた。

さらに、2019年最後から2020年の2月にかけて、生徒指導部の先生とも活動し、学校のルール作成を行った。ルール作成のワークショップでは、研修部の先生にファシリテーターになってもらいながらルールを決め、子どもたちに周知する際にも、研修部の先生にお願いした。



生徒指導部の先生が中心となって  
学校のルール作成を行った。



## <活動によって現れた結果・配属先の今後の展望と課題>

### 1. 学校・学級の目標が明確化される

#### ①学級指導計画の作成

18学級のうち、10学級の先生が学級指導計画を作成した。そこで、10人の先生方と学級計画に基づいた自己評価を行っていた。しかし、自己評価をしていく上で、何をできたとしていいのかという明確な基準がなかったため、計画に基づく自己評価は難しいということが分かってきた。そのため、この評価については2019年の5月に中止した。その代わりに、私が作成した「授業力チェックシート」と「学級経営力チェックシート」を用いて、子どもの様子や先生方の日ごろの授業について振り返ってもらった。

#### ②学校・各クラスの現状把握、意見交換、ルール作成

まず、現状把握についてだが、職員会議の場で必ずクラスの子どもについて話をする時間が毎回あるので、そこで全体に共有したいことを話すことができた。ただ、現状を話すだけで、「学校全体で子どもたちをどのように育てていくか」「どのような指導方法が適切か」ということについて考える時間とはなっていなかった。また、ボランティアから見た子どもたちの様子なども話せたら、いろいろな視点から子どもたちを見ることができただろうと考えるため、最終報告会ではそのようなことを伝えた。

また、学校のルール作成についてだが、2020年2月末、各教室にルールを掲示することができた。そして、先生方はこのルールに基づいて子どもたちを指導しようとしていくれている最中である。今後、先生方がこれをもとに指導をしていくため、一定の指導基準のようなものができるため、いろんなクラスをまわる専科の先生方も以前よりも授業がしやすくなると思

られる。また、担任が変わっても同じようなルールで指導できるため、学級をスタートしやすくなるだろう。来年度もぜひ学校のルールを作成してほしいと期待している。



音楽の先生が、クラスに掲示してある  
ルールを使って  
授業のルールを子どもたちと一緒に確認する様子



クラスでルール指導をする様子

## 2. 教員の技術のさらなる向上が見られる

### ①校内研修の実施

2019年に実施した、「研修に関するアンケート」では、70%の先生方が、「自身の授業が改善された」と感じ、59%の先生方が、「クラスの子どもたちが前よりも授業態度や授業への意欲が高まった」と答えた。ただ、課題は残る。

それは、「先生方の主体性が少し欠ける」ということである。研修の参加率は計19回で、約66%だった。先生によっては午後から別の学校に勤務する先生がいたり、家庭の事情でなかなか参加できない先生がいたりする。それは仕方のないことではあるが、自己研鑽についてあまり意欲的ではない方がいるのも確かである。また、研修は、私が主体となって取り組んできた。そのため、先生方が「研修はボランティアから聞くもの」という感覚になってしまっている。もっと先生方が主体となって研修が行える環境にする必要があったように感じている。ただ、「研修」となると重く考えてしまう先生方もいると考えられるので、「それぞれの技術の意見交換会」などから始めていくといいと考える。

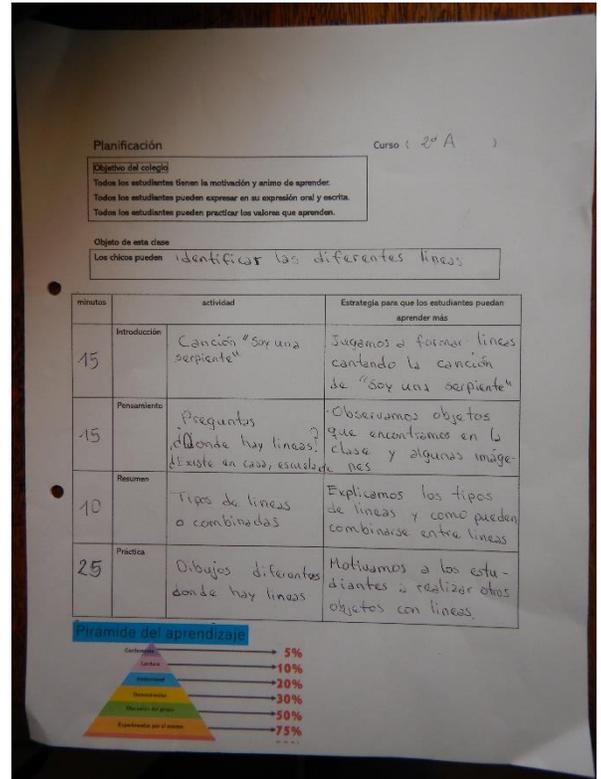


研修で伝えたことを  
実践してくれる先生方



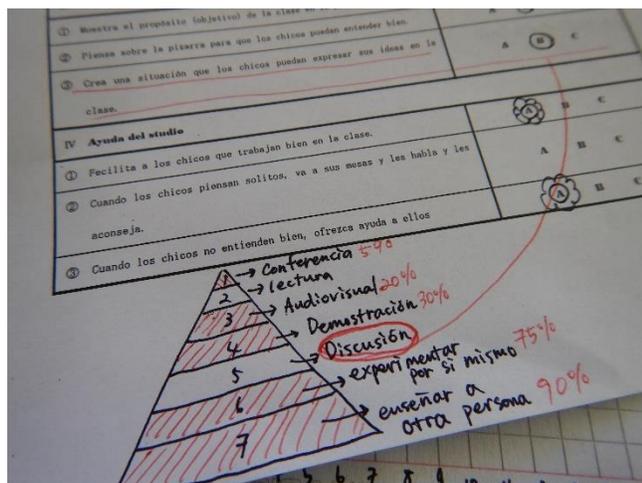
②授業改善

まず「授業の構成の改善」についてである。初めのころは、今日考えるテーマや、子どもたちの考えも書くことがなく、また、黒板が埋まれば消してしまい、子どもたちの考えの足跡がない状態であったが、少しずつ「導入・展開・まとめ・練習」の4つのパートで構成された授業を展開できるようになってきた。また、この構成が先生方には少し複雑であったようで、初めのころは試みる先生が少なかったが、私がクラスをまわり、例を見せたことにより、理解が深まったように感じる。授業を見せた後は、積極的に授業をしてくれる先生が増えたり、「まとめはどのように行ったらいいのか?」という質問をしてくれたりする先生が増えた。



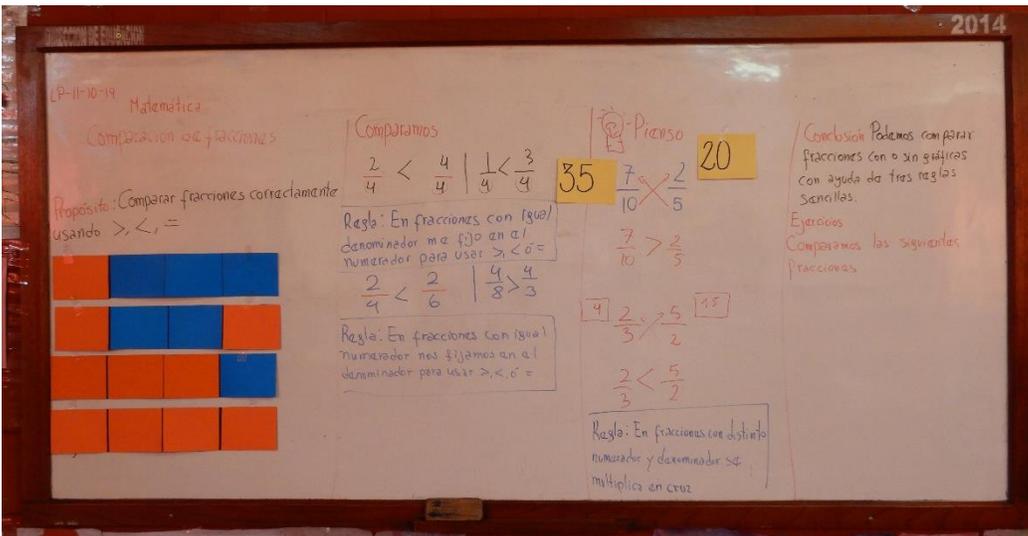
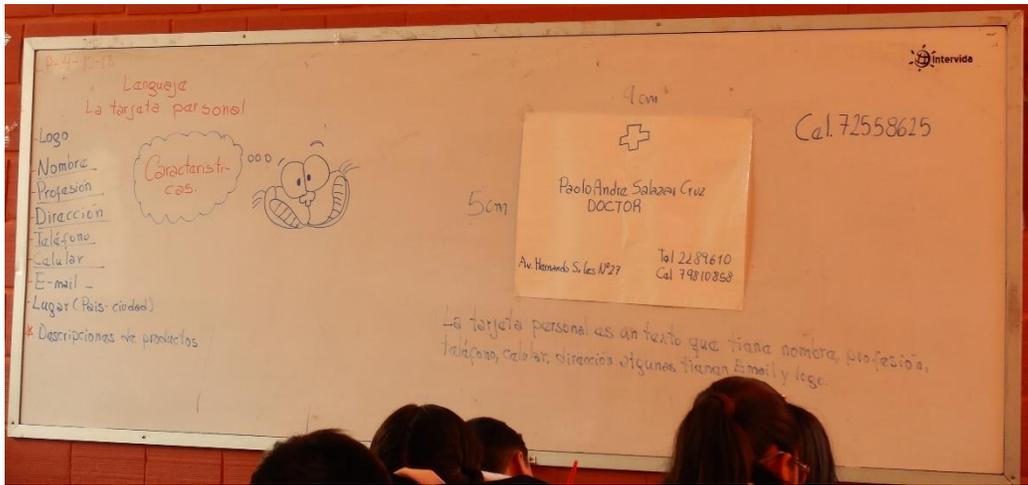
自ら計画を立てて授業を行った先生

次に、『『ラーニングピラミッド』』を用いた授業の展開についてである。各クラスの現状も違うため、なかなかグループで活動させたり、話し合ったりするところまでいけないクラスがほとんどであった。しかし、クラスによってはグループ活動を取り入れたり、互いに教え合ったりする授業を行う先生も出てきた。「授業シート」にラーニングピラミッドの図を入れて、その日先生が行った方法に印をすることを継続したことで、意識する先生

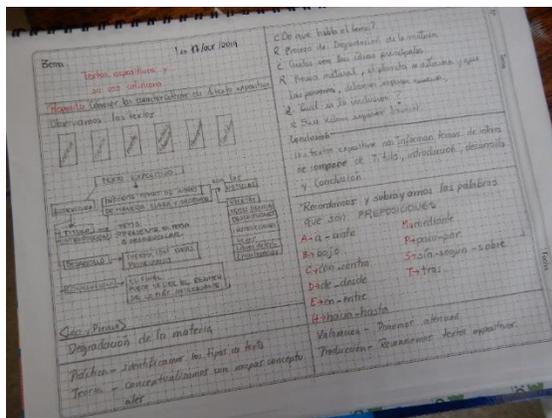


も増え、「いつも先生が教えるだけの授業」が少なくなったように感じている。

次は「板書の改善」についてである。「授業の構成の改善」と同様に、板書の改善は先生方には少し複雑であったようで、初めのころは試みる先生が少なかったが、私がクラスをまわり、例を見せたことにより、理解が深まったように思う。以下の写真は、ある先生の2018年のこの板書と、2019年の研究授業の際の板書である。



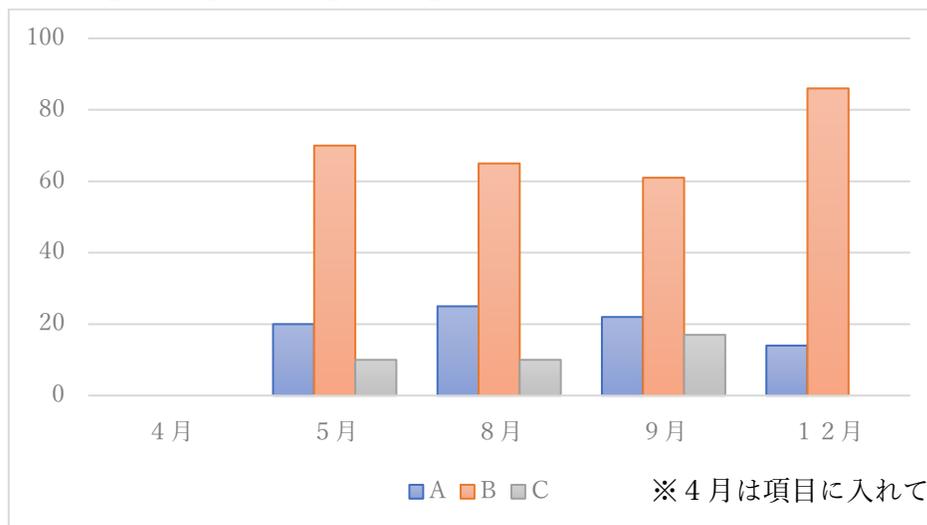
また、毎日の授業の板書を家で準備してくる先生も現れた。



そして、『授業力チェックシート』と『学級経営力チェックシート』を用いた自己評価の実施についてである。88%の先生方が、「自己評価が改善に有効だ」と感じ、82%の先生方が、自己評価に基づき、自身の授業方法を改善することができた。また、全体の自己評価の結果では、4月から12月までの間で、26項目中12項目が改善された。いくつか改善された項目を載せる。

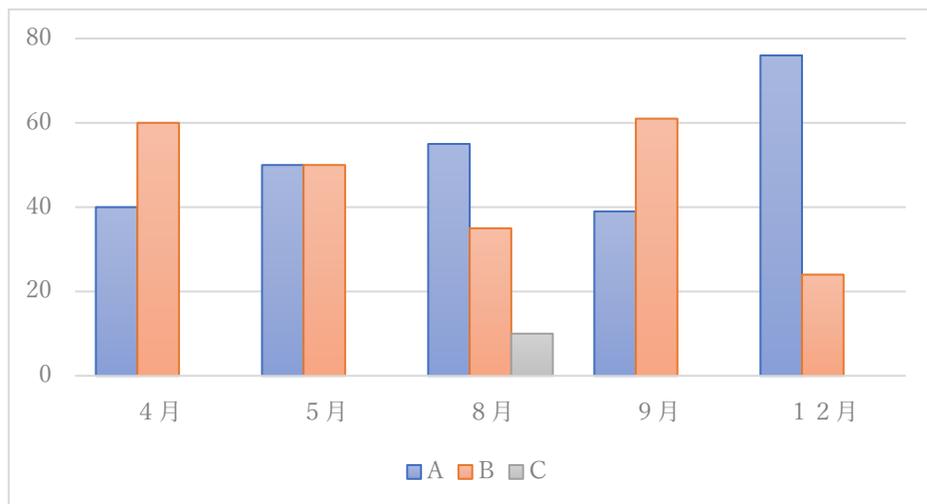
Puedo dar la clase utilizando 4 partes( Introducción, Pensamiento, Resumen y Práctica).

(「導入」「展開」「まとめ」「練習」の4つのパートに区切って授業を行うことができる。)



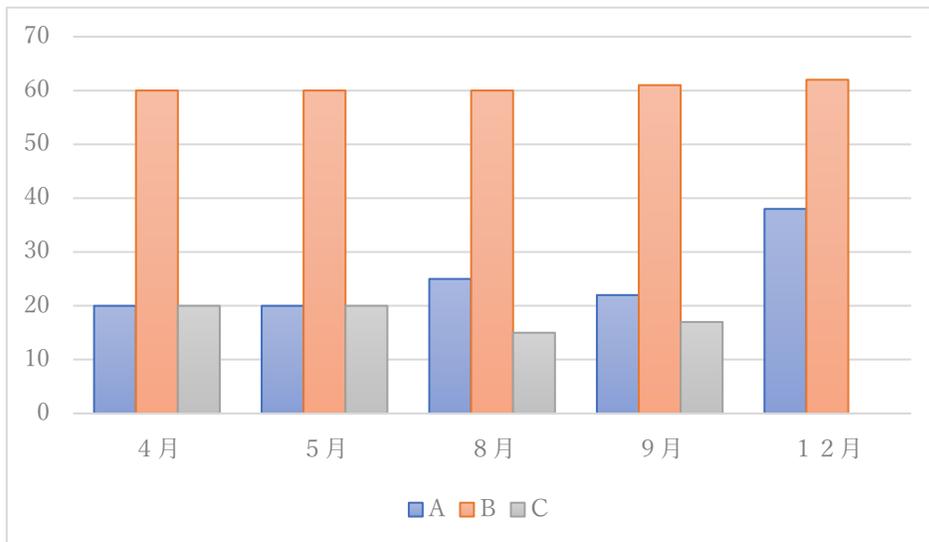
Los chicos pueden preparar unas cosas en sus mesas que son importantes en la clase.

(子どもたちは授業に必要なものを自分の机に準備することができる。)



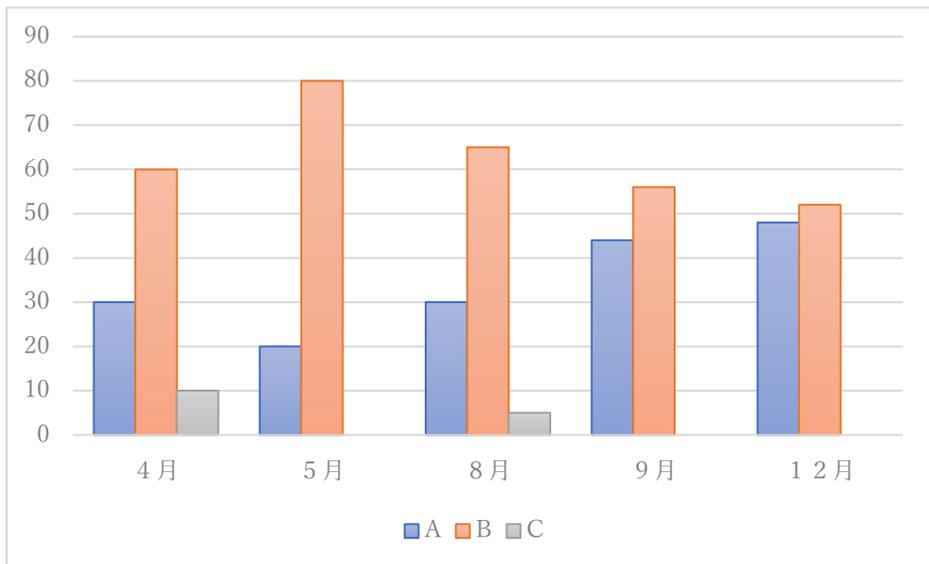
Muestro el propósito (objetivo) de la clase en la pizarra.

(黒板にめあてを書いている。)



Cuando los chicos piensan solitos, voy a sus mesas y les hablo y les aconsejo.

(子どもたちが自力解決をしている際に、机間指導をし、褒めたり助言をしたりしている。)



良い結果は見られたものの、今後の課題はある。それは、「自己評価項目の多さ」である。2つのシートで26項目もあるので、改善が必要な項目が多く、研修ですべての項目を扱うことができなかった。また、項目が多いことによって、先生たちも改善が必要だと分かっても行動に移しづらい。そのため、もし今後も継続してこれらのシートを用いていくのであれば、項目



### ③研究授業

2019年10月に、計5本の研究授業を行った。70%の先生方が、研究授業について好意的で、58%の先生方が、「今後も続けていきたい」と答えた。今回、研究授業に参加を希望しない学年がいたため、全員が研究授業を行うことは中止した。ただ、技術向上には、全員が研究授業をすることが望ましいと考える。また、研究授業をする環境をさらに構築していく必要がある。最終報告会では、「研究授業は、先生方を批判することでない。先生方のいいところを見つけるいい機会だ。」と伝えた。ぜひ今年度は、新しいボランティアとともに、全員が研究授業してくれることを期待している。



### 3. 教員が継続して技術力向上に努められるような環境が整う

活動紹介で書いたように、研修部と生徒指導部の先生方と一緒に活動をすることができた。特に、生徒指導部の先生方には、学校のルール作成の際に、実際にファシリテーターとして活動してもらった。この機会は、先生方が継続して研修を行っていきけるための第一歩だったと思っている。

しかし、私がいる間にこのような機会を設けられたのはたった1回であった。2019年11月や12月に、活動の振り返りや、学校の現状把握、そして来年度に向けての計画のワークショップを企画していたが、ポリビアの情勢悪化により、私が活動できない状況になってしまい、そのまま長期休みに入ってしまったため、行うことができなかった。これは非常に残念だった。

最終報告会では、「先生方で研修を継続する大切さ」を伝えたので、これからも継続していってくれることを期待している。

活動を終えてみて感じることは、配属先の受け入れ、ボランティアに対する意識は、おおむねよかったように感じる。配属先の校長先生や数名の先生方は、以前ポリビアで行った JICA 教育プロジェクトに参加したことがあり、さらに、今までに計5名の隊員が配属されていたこともあり、JICA 私に対するイメージも比較的良いと感じた。歴代の隊員が行ってきた活動を続けようとしている先生方も数名おり、これは配属先と歴代の隊員が毎回継続的に要請を希望し、連携して活動を継続してきた結果と言えるだろう。

ただ、課題となる点は、「ボランティアありきの活動」のようなイメージを持つ先生方が多いことである。隊員から何かを学ぼうという意識はとても高く、良いと思われるが、「研修を聞いて学ぶ」先生方が多く、積極的にお互いの技術の意見交換を行う先生は少ないように感じた。隊員が帰国後もさらに配属先が改善されるためには、「先生同士で学ぶ」ということがとても大事となってくると私自身考える。そこに関してのフォローや活動をあまりできずに任期が終わってしまうので、次の要請の際は、「互いに学び合う」という考えを活動初期の段階から念頭に置き、そこを中心とした活動を組み込むべきだと考える。

私の活動では、各教科の授業改善というよりは、「授業全般に関わる改善」を行ってきた。そのため、大半の先生方が一定のレベルで、どの授業であっても同じような流れで授業を展開することができるようになったり、さらなる改善に向けた自己評価ができるようになったりした。そして、これらの技術は私が帰国後も、どの教科でも利用していけるものであるだろう。

ただ、本来の要請内容であった「算数の授業改善」というところは不十分であった。というのも、各学年で必要としていることは様々で、また、その単元でしか再現ができない。そのため、各クラスを回って、その都度必要な技術を各先生に伝えていくことしかできず、全体の研修としては行えなかった。そのため、さらに一段階、授業改善の段階を進めるため、次は教科ごとの授業改善が必要だと考える。

## <その他の活動>

### ①ソーラン指導

2018年の9月から11月にかけて、当時の6年生に向けてソーラン節の指導をした。日本にとっても興味がある音楽の先生が私に声を掛けてくれ、11月の学校でのダンス発表会に向けて練習に励んだ。

当日は、保護者の方々が作ってくれた法被とはちまきで踊った。保護者の方々がとても協力的だったことを、今でも覚えている。



## ②配属先以外での研修会

配属先以外でも研修会を行ったり、活動紹介をさせていただいたりした。

日付	場所	内容
2018年9月22日	教員養成校 in ラパス	学級経営とは？
2018年11月14日	元カウンターパートの学校	聞く指導
2018年12月11日	同期の配属先 in ラパス	算数の導入
2019年3月6日	UMSA（ラパスの大学）	活動紹介
2019年8月30日	同期の配属先 in ラパス	計算練習
2019年10月4日	タリハ教育事務所	教師と子どもの良い関係づくり
2019年12月10日	同期の配属先 in ラパス	ユニバーサルデザイン
2020年3月4日	UMSA（ラパスの大学）	活動紹介

2019年から隊員同士で自主的に行う教育分科会の活動が活発になり、同期の配属先で研修会を行ったり、別の県へ行って研修会を行ったりした。同期が声を掛けてくれたおかげで、いろいろな先生方と知り合うことができたり、いろいろな活動に挑戦できたり、自分にとっていい経験になった。



## ③日本の勤務校への通信

月に1度、日本の勤務校に通信を送っていた。「ボリビアでの楽しい生活を知ってほしい」「ボリビアと日本の違いを紹介したい」「私の日常の生活を届けたい」という気持ちで始めた。

子どもたちにとって、身近な人が外国に行くというのは結構驚きがあると思う。（実際、私も中学校のころの担任の先生がイギリスへ行くと聞き、とても驚いたし、イギリスという国に興味を持ったことを覚えている。）。送った通信は、学校の昇降口に掲示していただき、子どもたちだけでなく、保護者の方々にも読んでいただけるようにしている。

楽しみに読んでくれていた子どもたちもいたようで、2018年には、あるクラスの子もたちに質問をもらってそれに答えたり、子どもたちがサルテーニャというポリビアのおやつを作ってくれたことを私に報告してくれたりして、少しではあるが、日本の子どもたちとの交流も行うことができた。



## かつどう はじ 活動が始まりました！

みなさん、お久しぶりです。賢味は楽しく過ごせましたか？日本はとても暑い夏だったようですね。先生のいるポリビアはとても暑くて、賢味がたくさん焼いた場所もありました。8月3日から、先生もついに活動が始まりました。日本とポリビアの学校で取っているところもあれば、違うところもあることが分かりました。今回は、取っているところ・違うところを紹介します。

### みんなサッカーが大好き！

朝、学校へ行くくと早く来た子どもたちがサッカーをしています。ポリビアのある地区は、サッカーがとても好きな地域です。箱にも、なわとびをしている子どもたち、鬼ごっこをしている子どもたちもいます。この学校には500人くらいの子どもたちがいます。修道小学校よりもたくさんの子もたちがあります。



### 学校で朝ごはんを食べます

日本の学校は、みんなで給食を食べますよね。ポリビアの小学校では、みんなで朝ごはんを食べます。朝ごはんは基本、パンや牛乳です。給食当番みたいに、朝ごはん当番があって、当番の子どもたちがみんなに配っています。ポリビアの牛乳は、袋に入っていて、袋を湯で切ってそのまま飲んでますよ！



### 授業を一生懸命受けています！

賢、賢は1年生から6年生までの授業を見させてもらっています。子どもたちがどんな勉強が苦手かな？ということを書きながら見ています。算数の授業では、日本よりも難しい問題をしていることもあります。でも、あきらめずに一生懸命勉強しています。そんな賢を見てると、修道



## ポリビアへ来て5か月が経ちました！

みなさん、完成していますか？そろそろ日本は暑くなっているのでしょうか？こちらバスは、お昼は暑くて、太陽が死ぬと怖いんです。さて、もう少し12月、ポリビアの学校は12月の初めが卒業祭。私の学校での活動も少しお休みになります。お休みの間に、次の学期からどんなことをしようかなと先生たちと計画を立てていきます！さて、今回は私の住んでいる町を紹介します。

### アルトオフラヘスという場所に住んでいます！

賢の住む町はアルトオフラヘスという地域。ラバスの中心部からバスで20分くらいのところにあります。若の街の通り、緑色のデレフェロ（ロープウェイ）が通っています。大きなスーパーなどはない場所ですが、みんな賢の名前を覚えてくれて、とても親切にしてくれます。さて、これから町を紹介します。



賢の賢味は、学校を出たすぐそこにある「キオスコ」、ポリビアの種類の多いところにある、お菓子や飲み物などを売るお店です。子どもたちは登校前や、下校前にお菓子を買い取ります。ここのお店の人は朝早くからお仕事をしています。

賢の賢味は「文通賢味さん」。ここでは、コピーもしてくれます。日本ではよく、コンビニでコピーができます。ここでは1枚7円くらいでコピーができます。よく授業で必要なプリントなどを印刷しています。



賢の賢味は近くの「市場」。たくさんフルーツやお肉、野菜が安く売られています。

## ③取材 (vo1ss さん)

「vo1ss (ボイス)」という、様々な分野で海外を拠点に活動している人々のリアルな声を伝えるというメディアに取材をしていただいた。(2019年4月29日に掲載)

内容としては、協力隊としての活動の中での楽しさややりがい、協力隊を目指したきっかけ、また、協力隊の活動後、やりたいと考えていることなどについて取材していただいた。自分の活動を、いろいろな方に見てもらえた良い機会だった。



EDUCATION - 5月11, 2019

## 小学校の先生、ポリビアへ行く

### ⑤Facebook「教育系隊員ページ」作成

2019年6月にFacebookで「教育系隊員ページ」を作成した。

現在、多くの教育に関わる隊員がそれぞれの任国で活動している。教育系の隊員が多い国もあれば、そうでない国もあり、どのように活動をしていけばいいかいろいろな人に相談できず、日々悩む隊員も多い。また、新卒で隊員になった人も多くおり、実務経験のない隊員にとって、どのような教材を作れば効果的か、どのような提案を現地の先生たちにしていけばいいか、悩む隊員も多い。現職教員や現職参加をされた元隊員が情報を共有できるメーリングリストは存在するが、職種や隊次、そして実務経験などを超えた教育に関わる隊員が何かを共有できる場は、当時、存在していなかった。そこで、隊員間の情報共有の場を作ることによって、リアルタイムな悩みを共有したり、日ごろの活動を共有したり、試してみた教材を共有したりする場を作ることで、自分たちの活動の活性化を図れたり、それぞれの配属先の方々の技術がさらに向上することが期待できると考え、仲間を募り、ページの作成をした。

現在、参加している隊員は中南米、アフリカ、大洋州、アジアの隊員で、計116名（2020年3月9日現在）となっている。作成後は、それぞれの隊員の活動紹介をFacebook上で紹介しているだけであったが、2020年2月には、ZOOMアプリを使い、活動に関する意見交換会を行うことができた。帰国後もこの活動を続けていこうと思っている。

### <私にとって協力隊活動とは・帰国後の目標>

一言で言えば、私にとって1年9か月は「自分の教職経験を見つめなおし、新たな目標を見つけれられた時間」であった。活動の中では、技術移転をしていくなかで様々な課題があり、どうしていいか悩む時期もあった。その中でいつも振り返るのは、日本の勤務校での経験である。何人もの先輩教員の方々が自分の考えを認めてくださった上で、いくつもの教材や指導方法を丁寧に教えてくださった。それが自分の力になったと感じている。ボリビアの配属先で先生と関わる上で、自分自身、「先生方の意見や取り組みを認めながら活動をする」ということを心掛けた。先生方の授業改善のために少しでも力になれたことは、日本の配属先での5年間のおかげだと思う。

また、5年間日本で教壇に立ち、その後ボリビアへ来たことによって、「自分が教師として、そして子どもたちと関わるにあたって大切にしたいこと」、そして「これからの自身の目標」が明確化された。それは「日本の子どもたちと南米の子どもたちをつなぐこと」、「日本に住む南米の人たちと関わること」である。

三重県には多くの南米圏の方が暮らしている。そのため、学校にはたくさんの南米にルーツを持つ子どもたちが在籍している。両親の仕事の関係で突然日本に来た子どもたちは、日本語学習に苦労したり、また大きくなれば、自分のルーツについて悩んだりする子も出てくる。ま

た、仕事の関係で来た大人の方たちは、日本で生活していくことに苦労する方も多いだろう。自分自身ボリビアに住んで、いろいろなことに苦労することを、身をもって感じた。そこで、三重県に住む外国人との交流・サポートを、教師の立場から、そして1人の実際に南米で暮らしてみた日本人としての立場からしていきたいと思っている。

さらに、もう一つの目標は「子どもに世界を見せること」である。私が子どものころもそうであったが、子どもたちは、外の世界がどうなっているのか、日本とは違う国はどんな感じなのかを知りたい人が多いと感じている。実際、6年生を担当していた際に、一生懸命知っている単語を使ってフィリピン出身のALTにたくさん質問していたことを今でも思い出す。そんな子どもたちのために、「子どもたちが世界を知ることのお手伝い」ができればと考えている。



今の時代、インターネットがあれば、どの国の人もすぐつながることができるし、国名を検索すれば、いろいろな写真を見ることができる。だが、実際の物を触ってみたり、実際の話や話を聞いたりすることは難しい。私の強みは、実際にボリビアの文化で暮らしてきたという経験を持っていることである。子どもたちにボリビアの文化や慣習、そして自分が行ってきた活動について、写真や実際のものを見せたり、実際に子どもたちにボリビアを体験してもらったりしながら、いろいろなことに興味を持ってもらいたいと思う。

### <最後に>

はじめにも書いたが、この1年9か月、悩まない時期はなかった。うまくいかない活動にどうしていけばいいのか、自分の殻に閉じこもる日もあった。その中でいつも振り返っていたのは、日本の勤務校での経験である。

何人もの先輩教員の方々が、自分の考えを認めてくださった上で、いくつもの教材や指導方法を丁寧に教えてくださった。ボリビアの配属先で先生と関わる上で、自分自身、「先生方の意見や取り組みを認めながら活動をする」ということを心掛けた。その考え方は、日本の先輩教員の方々が私に教えてくれたことだった。先生方の授業改善のために少しでも力になれたことは、日本の配属先での5年間のおかげだと思っている。

これから帰国するにあたって、遠く日本から私のことをたくさん支えてくださった同僚の先生方、友人、そして家族に感謝の気持ちを伝えつつ、また一から日本で教員として頑張っていこうと思う。そして、新たな目標に向かって一歩ずつ努力していこうと思う。

2019年12月31日

ウユニ塩湖にて

